

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500081		
法人名	社会福祉法人 きずな会		
事業所名	グループ ホーム きずな (ユニット1)		
所在地	二海郡八雲町立岩409番地13		
自己評価作成日	平成25年1月28日	評価結果市町村受理日	平成25年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と関わり合いに力を入れている。(日々のレクリエーション 町内ドライブ 行事を通じて) 又ボランティアの受け入れを積極的にすることで利用者様の満足度をアップして頂ける様努めている。地域住民参加の夏祭りをきずな会で行なっている(地域の方と利用者様の交流があり大変満足していただいている。) 職員のサービス向上の為に外部から講師を招きリハビリテーションの講習会を実施し学んだ事を利用者様に実践している。 又、外部の研修会に積極的に参加(感染症、後見制度、地域ケア会議、虐待)している。利用者様とのかかわり方に重点を置いている。(日々のレクリエーション、ドライブ、ボランティア団体様に来て頂いたり夏祭りを開催し、地域住民の方々と交流、参加できる機会を設けている。)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=0191500081-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成25年2月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームは、自然環境豊かな酪農地帯に立地しており、周りには民家も少なく、地域の方が気軽に立ち寄れる環境にはないが、夏祭りやボランティア訪問など、事業所でイベントを開催する都度、町内会に案内をし参加を呼びかけている。また、地域住民の協力のもと避難訓練を実施するなど、積極的に地域との関わりを深めている。建物は平屋建てで、ユニットとユニットの間には吹き抜けのホールがあり、居室やリビングも広く、全体的にゆったりとした、明るい開放感のある居心地の良い空間となっている。暖かくなると中庭には野菜などのプランターをはじめ、鉢植えの花や観葉植物が置かれ園芸を楽しんでおり、ホームの中から作物の成長の様子を見ることを楽しみとしている。近くには同法人が運営するグループホームがあり、一緒に研修会や運営推進会議を開催するなど日頃より連携を図り、職員のスキルアップやサービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール、休憩室に掲示し、常に意識できるようにしている。	日頃より職員会議の場等において、理念について分かりやすく説明をし、理解と共有を図り、日常の業務においても常に意識をしながら業務に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア団体様に来ていただいたり、町内会様との会食などを実施して交流をはかっている。	積極的に地域のボランティアを受け入れている。またイベントを開催する都度、町内会等に案内状を出すなど、利用者が地域で築いてきた交流関係が途絶えないよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりに参加したり、研修先、実習の場にて理解を得られるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様、町内会様、消防、役場(保健福祉課)の方々に、助言、意見を頂きサービスの向上に努めている。	平成24年度は、開催の日程調整等がうまく出来ず、定期的に開催することが出来ていない。	定期的で開催され、事業所での出来ごとや、相談ごとなど、細部についても色々話し合われ、そこで得た意見やアドバイスがきちんと業務やサービス内容に反映されることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と常に連絡を取り訪問された際は積極的に伝え、協力している。	日頃より、町の担当者とは連絡を密に取っている。毎月開催される町主催の地域ケア会議に参加し、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケア内容について職員同士で話し合い取り組み、外部研修に参加し知識を共有している。	玄関は夜間以外は施錠をしておらず、利用者が外出を希望すればいつでも職員が見守る対応をしている。身体拘束については管理者はじめ職員全員が研修会に参加し、職場の会議において周知しており、正しい理解を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々、職員同士で話し合い防止に努めている(職員会議での話し合いや研修で学んだ事を共有する。)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し地域包括支援センターの担当者と検討し実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、家族様が不安や疑問が無いよう時間をかけて説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族様に日々の様子や変化などを説明し家族様や、利用者様と話し合いをして職員会議で話し合い反映させている。	施設便りや各種イベントの案内などを事業所側から家族へ積極的に発信しているが、遠方のご家族も多く、直接意見を聞く機会はあまり多くない。	家族アンケートの活用や意見箱を設置するなど、家族等の意見や要望が運営に反映されることを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で情報交換を行い反映させている。	副施設長は会議や日常の業務において職員と意見交換を行っており、また、必要に応じ個別面談を行い、職員の意見や提案を事業所の取り組みに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講師を招いた研修会に参加できるよう機会をもうけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会に積極的に参加し交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様、家族様が抱える問題や、不安な事、要望等、時間を掛けて傾聴し安心、納得できる対応を行なうように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の気持を受容し、関わりを多くしていく事で信頼関係を築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族様の抱える問題を把握し解決が困難な場合は、専門機関で解決できるか見極め対応するよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で個別ケアを念頭に喜怒哀楽を共有出来る環境を築けるよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との関わりを多く持ち利用者様支援の為に必要な話し合い、相談しやすい環境を保つように努力している。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の今まで大切にしてきた関係を尊重しなじみの人との面会、電話の制限をせず支援している。	地域の方の訪問を積極的に受け入れており、利用者個々の希望にそって、馴染みの店への買い物や美容室利用などの外出支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と一緒に、利用者様同士の交流の場を設け必要に応じ仲介に入りながら関わりを多くするよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も本人様、家族様の求めに応じ相談や支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で言動や行動を把握し声掛を多くする事で本人が話しやすい環境を作るよう努めている。	日頃のコミュニケーションの中で、利用者一人ひとりからの意見や要望を聞きだすことを大切にしている。職員間の話し合いの場においても利用者の立場に立った意向の把握に努め、ケアプランの作成に活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時、本人様、家族様と面談し生活歴を伺い理解を深めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の生活リズムを把握し維持で出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	言動や行動を通し本人様のニーズを把握し全職員と意見交換しながらモニタリングを作成し計画作成担当者がそれを元に介護計画を作成している。	本人、家族からの要望や意見を反映し利用者本位の介護計画を立てている。身体状況などに変更があれば、随時サービス担当者会議が開催され、見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践した事を記録し情報を理解したうえで介護計画へ反映、活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護に対する多様化したニーズに対応出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握、施設全体が地域と連携をとり関わりを維持出来るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人様、家族様の希望するかかりつけ医に受診支援している。また月2回訪問診療が行なわれ適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前からの主治医の病院への継続受診が出来るよう通院の送迎を行っており、本人、家族の希望に沿った医療が受けられるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態変化等が見られた場合、看護師に報告相談し早期対応に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様や家族様の不安が軽減出来るよう医療機関と情報交換や相談を行なっている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時本人様、家族様に説明し事業所で出来る支援をしている。	入居時に事業所で出来る支援を説明している。重度化し事業所で対応が出来なくなった場合には、地域の関係者と協力し、本人、家族の意向に沿ったケアや医療が受けられるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを把握し利用者様の急変や自己に備えている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署との連携で防災訓練を町内会様に協力して頂き、利用者、職員で参加し行なっている。	地域と防災協定を締結し、地域住民の協力の下年2回、夜間帯も想定した避難訓練を実施している。また、居室の入り口にはトリアージ表示を行い、避難誘導がスムーズに出来るよう配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を尊重した対応を出来るよう努めている。	利用者一人ひとりに合わせた、コミュニケーション法を職員全員が共有し、尊厳を重視した対応が行われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表情や様子に気を付けて1人、1人の思いを把握するよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が出来るよう1人、1人のペースに合わせて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品などおしゃれが出来る物の購入希望がある時は、支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節あった食事や行事などで利用者様の意見を反映出来るように一緒に考え調理や片付けを行なっている。	職員は利用者と一緒に同じものを食べ、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。食事の準備や片付けにも、利用者が無理なく楽しみながら協力できるよう配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を活用し把握に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後声掛け付き添い見守ったり、介助が必要な利用者様には介助にて対応している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し声掛けトイレ誘導など行なっている。	排泄チェックシートを利用し、利用者個々の排泄パターンを把握して、声掛けや誘導を行っており、安易に紙おむつを使用しない、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物を提供したり、運動や、腹部マッサージを行い便秘予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴日を決め一人、1人のタイミングに合わせて入浴している。往診日の後の入浴日では、入浴剤をいつもと違うものを使用している。	週2回以上は入浴していただけるよう、入浴日や時間帯は特に決めていない。利用者一人ひとりの希望やペースに合わせて入浴を楽しめるように、個々に添った支援をしており、また、希望により同性介護を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んで頂けるよう蛍光灯の明るさや日光の明るさに1人、1人の状態に応じて支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師の指示のもと服薬管理をし薬物に対する基本的な知識を十分に理解するよう努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の仕事や、その人にあった仕事を声掛け職員と一緒にこなしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、職員と施設の庭を散歩したり日光浴を行ったりしている。又公用車を利用し初詣、花見 近くの公園などに外出支援している。	散歩の付き添いや買い物の送迎、ドライブなど利用者一人ひとりの希望に沿った外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じお金をつかう時は職員が付き添い見守りをして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から要望があれば職員が希望の相手にダイヤルをしてから受話器を渡し対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に施設内の温度、湿度をチェックし天気に応じてカーテンの開け閉め、電気を着けたり、消したり対応している。また 季節感を取り入れた造花、生花、など季節に合った飾りを飾っている。	リビング内は明るく、ほとんどの利用者が日中はリビングで過ごしており、落ち着いた居心地の良い共用空間となっている。またリビングの横には少人数で過ごせる空間も用意してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にテーブルやソファがあり利用者様が自由に使えるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを自由に持ち込んでいただき心地よく過ごしてもらえるようにしている。	入居前、家庭で使用していた馴染みの家具などを持ち込んだり、好きな絵や写真を飾るなど、居心地の良い自分の部屋として過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を確認し職員の見守り、付き添いのもと自分で出来ることはやってもらうようにしている。		